

広報

# はよなす

2016年 秋

第86号  
(季刊秋号)

平成28年  
11月発行

## 泌尿器科外来開設される

泌尿器科 三浦 邦夫

土崎病院に4月から開設された泌尿器科外来を担当しています。今のところ、診療は水、木の午前中です。ところで泌尿器科という科をご存知ですか？今ではダ・ヴィンチというロボットを使って手術をするような最先端の医療を提供できる診療科なのです。ダ・ヴィンチと聞くとあの有名なレオナルド・ダ・ヴィンチが頭に浮かびますが、ここではda Vinci Surgical System（ダ・ヴィンチ外科手術システム）、つまり内視鏡下手術用ロボットのことです。これはアメリカ本土または空母上の医師が戦場にいる負傷者に遠隔操作で必要な手術を行うために開発されたものです。一基3億円といわれています。術者は別室でモニターを見ながらアームを操作し手術をおこいます。視野は拡大されて見るので安全に手術できます。そのダ・ヴィンチで行える手術で唯一保険適応が認められているのが、前立腺がんの手術で、これを行うのが泌尿器科という診療科です。ダ・ヴィンチは秋田県では秋田大学に導入されています。

このように、最先端の医療も行っている泌尿器科ですがその歴史は比較的浅いのです。かつては、梅毒、淋病といった性病の診療は皮膚病変を伴うことから皮膚科で扱っておりましたがその後皮膚泌尿器科ができ、50年くらい前に泌尿器科が独立しました。

泌尿器科の守備範囲は性病から腎臓、膀胱、前立腺の腫瘍、感染症、排尿異常などです。

当院では、主におしつこが近いという頻尿、過活動膀胱、尿が出にくいという前立腺肥大症などの排尿困難、膀胱炎などの外来診療を行っています。おしつこの悩みでお困りの方は是非ご相談ください。

ところで私は鉄道マニアで、いわゆる“鉄ちゃん”です。子供のころから機関区の蒸気機関車の汽笛を聞きながら育ちました。鉄道模型も作りました。最近では列車の写真を撮るより鉄になっています。時刻表と地図を見ながら撮影に行きます。季節も大いに関係します。最近では秋田を走ったSLを追いかけ、秋田新幹線“こまち”と桜の競演を楽しんでいます。桜が満開の時と天気、休日の三要素が重ならないといい写真は撮れません。

土崎病院に来てよかったのは鉄道ファンにとっての撮影スポットとして有名な土崎の大カーブというのが近くにあることです。ここは土崎工場から土崎駅にかけての地点です。土崎工場に入場する車両も見られます。土崎の港祭りの時は車が通行しにくくと聞かされていたので電車で通勤してみました。今まで憧れていた電車通勤ができる幸せでした。これからもよろしくお願いします。

# 病院機能評価更新認定

土崎病院事務部長 中川 正則

当院は、平成13年に、秋田県で三番目、秋田市では初めてとなる公益財団法人日本医療機能評価機構の病院機能評価の認定を受けましたが、この度で4度目の認定となりました。

認定は5年毎の更新ですが、初回の審査は病棟新築後、2度目は外来棟新築後の実施となり、また、3度目の平成23年の審査は、東日本大震災後間もなく、2日目の審査が停電の中でスタートするという状況でしたので、この度が最も落ち着いた状態での受審でした。

この度の審査にあたっては、評価機構より示された、手順・基準を活用した質の良いケアの実践、外来から退院に至るケアプロセスといった重点項目及び、新たに追加された評価項目等をふまえて整備を進めました。また、訪問審査当日に評価調査者の方々からいただいた貴重な助言を受けて、改善につなげ

ることが出来ました。

当院では9月から電子カルテシステムを導入しました。今後一層、医療の質及びサービスの向上に努めてまいる所存ですので、忌憚のないご意見を何とぞよろしくお願い致します。



## 電子カルテシステム導入のお知らせ

**平成28年9月1日(木)から  
「電子カルテシステム」を  
導入しました。**

当院では、さらなる医療サービスの向上とより安全な医療の提供を目指し、平成28年9月1日より「電子カルテシステム」の運用を開始しております。

これにより、院内の情報の共有・伝達がスムーズになります。業務効率の向上が見込めますので、診療や会計の待ち時間軽減や医療の透明性の確保、質の向上など患者さんに寄与できると考えております。

なお、想定外のトラブルやシステム操作への不慣れにより、一時的に受付や診療、会計などでお時間を要することも予想されます。

患者さんには何かとご不便やご迷惑をおかけする可能性がありますが、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

## 「秋田市元気な子どものまちづくり企業」に認定されました



秋田市元気な子どもの  
まちづくり企業

医療法人運忠会は「仕事と子育ての両立支援」や「子育てにやさしい活動」に取り組む企業として「秋田市元気な子どものまちづくり企業」に認定されました。

この制度は、子育てを社会全体で支える気運を高め、誰もが仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)をとりながら、希望にそった働き方ができる社会づくりをめざすものです。

今後も働きやすい職場環境や地域の子育てを支援する活動を行っていきたいと思います。

# 高齢者のフィジカルアセスメント ～高齢者の特徴とケアの基本を学ぶ～ を受講して



2 病棟 看護師  
大友 美穂

「老」ことば、老いのいふ・年をひるいふ・あたは老人  
「老年期」ことは、人生における老人の時期・老人期  
「老化」ことは、年をとるにつれて生理機能が衰えること  
日本では高齢者の増加に加え、出生率が低下しており、高齢化社会が進んでくる。中でも、秋田県の高齢化社会は全国第1位を占めている。  
老化により、さまざまな具体的機能の変化がおこり、それが原因で日常生活へ影響を及ぼしてくる。高齢者の疾病をめぐる特徴として、「症状・経過が典型的ではない」「病状が急変しやすい」「合併症を起こしやすく、複数の疾患病を持つ」「慢性的に経過することが多い」「脱水・電解質異常を起こしやすい」「意識障害・せん妄を起こしやすい」「薬剤の副作用が出やすい」等がある。

「フィジカルアセスメント」とは、頭部から足先までの全身の状態を的確に系統的に把握するため、健康歴の聴取(問

診）を含めて、視診・触診・打診・聴診のあらゆる技術を用いて看護者が行う身体検定である。看護職が行うフィジカルアセスメントとして重要なのは、ヒストリー（人とのなりの物語）の聴取と3つの視点①イグザミネーション「対象者が示している状況を細部にわたり的確にとらえる虫の目のような視点」②トータルアセスメント「身体全体を高い次元からみたる鳥の目のような視点」③ライフアセスメント「高齢者の身体を彼の生活史という流れのなかでとらえた魚の目のような視点」がある。対象は、体と身体（重要な四肢や臓器の寄せ集めとしての「体」）をアセスメントするのではなく、「歌」という言葉に表現されるような自然の道理のなかで人格を持つていいている人としての「身体」をみていくことが大切）ホステリックな身体（生物学的、心理・精神的、社会的、文化的、生活史・歴史的、スピリチュアルな在り）である。

高齢者によくみられる身体症状として、脱水・スキン・トラブル・排泄障害・転倒・認知機能の障害・痛み（スピリチュアルペイン）等がある。脱水には水分欠乏性（高張性）脱水、ナトリウム欠乏性（低張性）脱水、混合性（等張性）脱水の3種類があり、高齢者は水分欠乏性脱水になりやすい。理由として、水分・電解質調整機能の低下、水分や電解質の排泄量が過剰となる為である。アセスメントとして、食事・水分の摂取量、排尿・排便の量や性状、口腔や舌の乾燥、皮膚の乾燥・彈力性の低下等があり、中でも腋窩の乾燥は高度な脱水を疑うと話されていた。スピリチュアルペインとは、誰もが持つ痛みであるが、身体的・精神的・社会的痛みとは性質が異なる。その為、薬や治療・他人からの助けだけでは癒されない。認知症・高齢者は、自己の喪失や生きる意味の喪失を抱きやすく、表現できない事

に苦しむ。苦しみを捉えるには、身体的・社会的・精神的にスピリチュアルな痛みを包括的にアセスメントし、自分の思いを表出し、これまでの人生と向き合えるような環境を整える・寄り添う事が望まれる。

高齢者の弱った身体から発せられるサインは微弱であり、「ねや?」「いつもの違う?」は重要なサインである。私達は感性を高く持つことが重要で、日頃からの観察が大切である。高齢者のフィジカルアセスメントは、身・心・真・全てを医療者・生活者の目でみる、広い意味でのエンド・オブ・ライフ期にある高齢者にとって最期をどのように迎えるか、どう生きるか、死を見据えた上でアセスメントとケアを行う必要がある。

寝たきりや意識障害の患者が多い病棟で勤務しており、日々の観察力の重要性や変化に気付ける洞察力の必要性を今回の受講で改めて学び、今後の業務に活かしていきたい。

# 第14回 日本臨床医療福祉学会に参加して

介護老人保健施設なぎさ  
リハビリ科副主任 作業療法士

川村 純

平成28年9月1日（木）、2日（金）に秋田市で『第14回日本臨床医療福祉学会』が開催されました。本学会は、医療・福祉に携わる多くの職種の方々の参加を得て意見交換や議論を深めることにより臨床医療・福祉の水準を高め、広く市民への啓発と普及に貢献することを目的とされています。今年度の学会は秋田緑ヶ丘病院統括顧問の坂本哲也先生を学会長に迎え、「心が見える地域医療連携～垣根を越えて～」をテーマに開催され、当施設からも鈴木進悦支援相談員による『在宅復帰支援への取り組み』についての発表が行われました。

一般口演の中で私が印象的だった発表は、介護老人保健施設における「フロアリハビリテーション（フロアリハ）」についての発表でした。フロアリハとは介護職がリハビリ職の指示のもと日常生活の中でのリハビリを行うというもので、介護職からの提案がきっかけで開始したそうです。介護職の人員不足等の課題のある現場でフロアリハが成功した背景には①一連の介護の関わりの中で行うようにしたこと②曜日を固定せず月単位での関わりにしたこと③担当介護士とリハビリ職員が直接連携したことの3つが挙げられていました。現在は介護業務の流れの中で月10回を上限に実施しているとのことでした。フロアリハはリハビリ職と介護職の連携なしには成立せず、その連携の強さに感心させられるとともに改め

て連携の重要性を感じました。リハビリの回数は限られているため日常生活におけるリハビリは重要です。当施設でも、毎日の生活とそれに携わる介護の関わりそのものがリハビリという意識を持った施設作りに取り組んでいきたいと思います。

その他にも、少子高齢社会と呼ばれて久しい現在、育児と家族の介護に同時に直面する「ダブルケア」に対する取り組みについての発表など興味深い発表がいくつもありました。

今回の研修では、リハビリ職だけでなく、医師・介護職・相談員・介護支援専門員等、多職種の発表を聞くことができ、多方面にわたる医療・福祉について考える良い機会となりました。今後も機会があれば様々な研修に参加し、知識を深めていきたいと思います。



**○ 医療法人 運忠会  
土崎病院** 病院長 小野 栄二  
**TEL : (018)-845-4121**

内科・外科	月	火	水	木	金	土	日
午前 9:00 ～12:00	●	●	●	●	●	(第2・4)	/
午後 14:00 ～17:00	●	●	●	●	●	/	/

外科の診察は午後予約制です。また水曜午後は休診です。

心療内科	月	火	水	木	金	土	日
午前 9:00 ～12:00	/	●	●	●	●	/	/
午後 14:00 ～17:00	●	/	/	/	/	/	/

平成28年4月から泌尿器科開設しました

泌尿器科	月	火	水	木	金	土	日
午前 9:00 ～12:00	/	/	/	●	●	/	/
皮膚科	月	火	水	木	金	土	日

平成28年2月から禁煙外来を開設しました

禁煙外来	月	火	水	木	金	土	日
午後 15:30 ～16:30	/	/	/	●	●	/	/

禁煙外来は予約制です。018-845-4121までお問い合わせください。

# 第17回 運忠会研究発表会を終えて

図書研修委員会(看護師) 駒井 悅子



平成28年度院内研究発表会には、関連法人でもある医療法人久盛会秋田縁ヶ丘病院と介護老人保健施設三楽園、社会福祉法人久盛会介護老人保健施設あまさぎ園、特別養護老人ホーム広洋苑より16名の職員からも参加をいたしました。

発表1は事務部より、消耗品購入コスト削減への取り組みについて報告され、当院が使用している医療材料340種類と介護材料150種類の中から、今回は病棟で使用する顔拭き布製タオルについてメリット、デメリットを検討し、衛生面や作業時間の短縮、コストの削減などを考慮し、ディスポタオルに切り替えた経緯につき報告がありました。

発表2は地域福祉部より、「多様化している在宅生活を支えるために～介護支援専門員としての関わり～」について事例を交えた報告がありました。最近は家族との疎遠、家族と不仲、金銭的に困窮している利用者などへの関わりから、日々の業務において模索している状況につき報告がありました。

発表3ではなぎさ栄養科より、食べこぼしの多い方々に対して口腔訓練（花豆を皿から取り口の近くまで運び別の皿へ移しかえる練習、パタカラと大きな声で発音させ、口の動きを訓練するというもの、新聞を読んでもらう）を行い、食べたくても食べることが出来ない方へ、多職種（管理栄養士、介護福祉士、作業療法士、相談員）の連携により、無事在宅へと復帰した事例報告でした。

発表4は病棟看護部からの報告で、外来から入院するまでの待ち時間を利用し、患者さんや家族から問診票（家族歴や連絡先など）を記入していただき、より円滑に進めていくよう施行状況調査を重ね、その結果において有効利用できることもあったが改善点も明らかになり、そこでアンケート調査を実施することにより、入院時間診票が改良されたとの報告がありました。

発表5、6では土崎病院となぎさの感染対策委員会より、各々日ごろ取り組まれている感染対策について報告

がありました。

発表7は放射線科からの報告で、「胸部座位X線撮影における、燐殻線除去用グリッドのカットオフによる影響の検討」について報告がありました。

最後に教育講演では小野病院長による、「肺結核と非結核性抗酸菌症について」の講演があり、肺結核は昔、不治の病と言われていたが、現在では治療薬が普及したことにより罹患率、死亡率ともに減少してきたとの事。しかし非結核性抗酸菌症は増加傾向にあり、今回はその病気につき重点的に講義をいただきました。菌は水回りやほこりが多い場所で感染しやすく、男性よりも女性に多く罹患する病気であり、人から人への感染はないが、症状も極めて少ないために定期検診などにより、早期発見、早期治療に努める事が大切であるという内容でした。

今年度は病院の医療機能評価機構による更新。また4月からは、電子カルテ導入前の各部門での検討を積み重ね、9月1日に電子カルテ導入開始となりました。その中の研究発表に向けた準備ということで大変苦労したのではないでしょうか。皆様大変お疲れ様でした。

## 第17回 運忠会研究発表会 プログラム

発表1	消耗品購入コスト削減への取り組みについて (事務部 総務課) ○能登屋 裕太、佐藤 孝則、山下 修
発表2	多様化している在宅生活を支えるために ～介護支援専門員としての関わり～ (地域福祉部 介護支援専門員) ○加藤 志美、菊地 明美、佐藤 千秋
発表3	しっかり食べよう！食べこぼしひぜり (なぎさ 栄養科) ○豊島 垣希子、石黒 俊、安宅 理那、鈴木 進悦
発表4	入院時間診票の導入に向けて (看護部1病棟) ○菊地 結佳、村上 勝子、赤坂 裕子、伊藤 祥子
発表5	ノロウイルス感染症対応マニュアルについて ～施設内感染対策委員会の取り組み～ (ショートステイなぎさ) ○平石 のぞみ、小林 由宇、東海林 紀子、八百屋 香子
発表6	院内感染対策委員会活動報告 ～感染管理ベストプラクティスの取り組みについて～ (院内感染対策委員 看護部) ○村上 勝子、上村 雄太
発表7	胸部座位X線撮影における散乱線除去用グリッドのカットオフによる 影響の検討 (放射線科) ○加藤 洋子、目黒 賢一
教育 講演	肺結核と非結核性抗酸菌症について (病院長) 小野 栄二



平成28年9月11日(日)、第20回なぎさ祭りを開催いたしました。今年は天候に恵まれ、ご家族の皆様やボランティアの方々にご協力をいただき、盛大に執り行うことができました。今年は『百花繚乱～笑顔の花を咲かせましょう』をテーマに掲げ、皆様にご満足いただけるよう、4月末頃よりなぎさ祭り実行委員会を中心に準備を行なってまいりました。

芸能部門では、4団体の皆様に芸能披露を行なっていただきました。あおぞら保育園の園児たちによるお遊戯には笑顔がこぼれ、またNTT竿灯会様の華麗なる竿

燈妙技には歓声があがっていました。そして大正琴の演奏では懐かしい曲を演奏していただき思わず口ずさむ方多かったです。加藤トヨ子社中様の素敵なお踊りには、キラキラした表情で見入っている入所者の皆さんとても印象的でした。

また、模擬店部門では今年もキャスルホテル様のご厚意により先着200名様へパンをプレゼントし、炊き込みご飯や今年初お目見えのチョコバナナクレープなどを販売していただきました。

そして今回は、記念すべき第20回目のなぎさ祭りということで毎年恒例の大抽選会も20等～特賞までの豪華な賞品を準備して行なわせていただきました。当選番号が呼ばれるたびに会場内では「おいしいなあ」という声や、「当たった!」などという歓声が響き渡りました。

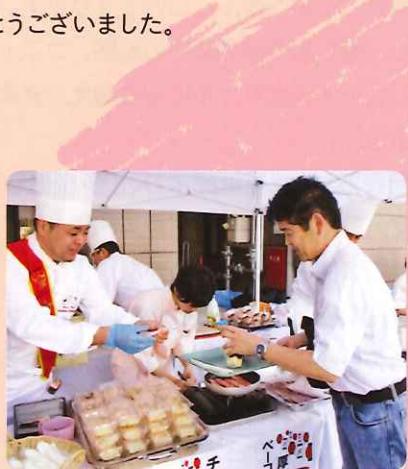
今年多くの皆様のご協力があり、第20回という節目の祭りを無事に終えることができました。

この先、25回、30回と皆様と一緒になぎさ祭りを楽しんでいけるよう、これからも日々精進してまいりたいと思います。

本当にありがとうございました。



あおぞら保育園の園児たちによるお遊戯



キャスルホテル様のチョコバナナクレープ



高橋施設長の挨拶



大正琴の演奏



NTT竿灯会様の華麗なる竿燈妙技

## 編集後記

11月に入り、冬の足音が聞こえてくるようになりました。時のたつのは早いもので今年も残りわずか

です。今年、当院は泌尿器科の開設や電子カルテの導入等、大きな変化のあった一年でした。世間に目を向けてみると、リオデジャネイロオリンピック・パラリンピックにおける日本選手団の活躍やプロ野球・広島東洋カープの25年ぶりの優勝など、

スポーツ界の明るい話題が多かった一方で、熊本大震災、秋田市で発生した竜巻による被害等、自然の脅威について改めて考えさせられた一年でもありました。

さて、はまなす第87号は来年2月発行予定です。少し気が早いかもしれません、来る2017年が皆様にとりまして素敵な一年となりますよう心よりご祈念申し上げます。

(能登屋)